

平成30年度
社会福祉法人淳邦会 事業計画

特別養護老人ホーム のぞみ荘

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

ケアハウス オパール

デイサービスセンター オパール

オパール居宅介護支援事業所

福田高齢者支援サブセンター

グループホーム ひなぎく

育成推進室

平成 30 年度 事業計画

特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

サービスの提供にあたっては、「ご利用者の生活の場であること」、「人としての尊厳が守られること」を念頭に置き、日々安心して楽しい時間がある穏やかで安らかな暮らしを提供できるようご利用者一人ひとりにあった生活援助に努める。

また看取りの対応を常に考え、ご利用者本人、ご家族と常に連携できるよう丁寧な接遇に努める。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

施設から地域に出向きのぞみ荘をしっかりと知ってもらい、地域の方々のニーズの情報収集を行い、新たな取り組みや社会貢献活動に活かす。

ボランティア活動など積極的に受け入れ、利用者との連携強化に努める。

また、高齢者緊急・困難なケースについてショートステイ等により可能な限り受け入れるなど、関係機関、関係施設との連携の下、地域におけるセフティーネットの役割を果たす。

・優秀な福祉人材を育成する

各種研修会の開催や外部研修会への積極的参加、計画的な口腔ケア、専門的な認知症ケアや看取りケアなどにより、利用者に質の高いサービスを提供する研修がより実効のあるものとなるよう努める。

配置転換をはじめとする人事施策によって職員の職務能力とスキルの向上を図っていく。

実習生を積極的に受け入れ、関係機関との連携を図りながら、未来の福祉を担う人材を育成することにより、福祉人材の実践力の向上に資する。

・人が活きる職場環境を整備する

居者用のベッドについて購入時から相当の年数を経ており、傷みが大きいことから年次計画で電動ベッドを購入し入居者環境の整備に努める一方、介護ロボットや機器の導入を図ることにより職員の腰痛予防に努め、ご利用者や職員の負担軽減や効率化を図る。

職員がより充実して勤務できるようメンタルヘルスケアに取り組み職員を大切にす施設運営に取り組む。

・安定した経営を継続する

施設運営を永続的なものにしサービスの提供を継続していくために、稼働率向上以外での収益向上のため新たな加算を獲得し、増収、収入の多様化を目指し、経営の安定化を目指す。

待機者登録数が減少していく中、登録数増加をめざし地域の医療機関等に積極的に訪問を行い信頼関係を構築する。

ご利用者一人ひとりの心身の状況を的確に把握し、生活に寄り添う看護ケアを心がけ、疾病への早期対応や協力病院、嘱託医師、ご家族との連携を密にし、安心して生活を送れるよう努め、入院日数の削減を図る。また、新規利用者や退院者のスムーズな受け入れが実施可能なよう、タイムラグの短縮をめざして各職種の連携・協力体制の強化に努め、稼働率 95%以上を目指す。

短期入所稼働率を 75%に設定し、ホームページを有効活用し空き状況の開示、行事の案内などについてより発信度を強め、目標に向けて情報を提供する。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

身体拘束の廃止、介護事故の未然防止・再発防止、感染症（特にインフルエンザやノロウイルス）等の予防やまん延の防止、食中毒の予防など利用者が安心した日常生活を送れるよう努める。。

平素から防災関係設備・機器の整備点検を適切に行うとともに、定期的に避難訓練、防災訓練を実施し安全対策に努め入居者の安全対策や環境整備に努める。

また、非常災害時の福祉避難所として倉敷市と協定を締結しており、倉敷市から要請があった際は可能な限り受け入れ、支援していく。

平成 30 年度 事業計画

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

「その人らしさを大切に、また尊厳が守られること」を目標に掲げ、居室が暮らしの場になっているか、落ち着いた雰囲気・環境になっているか、その人らしく生活できているかなどを常に考え支援する。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

施設から地域に出向きのぞみ荘をしっかりと知ってもらい、地域の方々のニーズの情報収集を行い、新たな取り組みや社会貢献活動に活かす。

ボランティア活動など積極的に受け入れ、利用者と地域社会との連携強化に努める。また、運営推進会議を効果的に活用し必要とされる施設の実現に努める

・優秀な福祉人材を育成する

各種研修会の開催や外部研修会への積極的参加、計画的な口腔ケア、専門的な認知症ケアや看取りケアなどにより、利用者には質の高いサービスを提供する研修がより実効のあるものとなるよう努める。また、ユニット型施設としてとしての特色を活かした運営を図るために、個々の職員がユニットケアを理解し実践できるよう研修を実施する。

配置転換をはじめとする人事施策によって職員の職務能力とスキルの向上を図っていく。

実習生を積極的に受け入れ、関係機関との連携を図りながら、未来の福祉を担う人材を育成することにより、福祉人材の実践力の向上に資する。

・人が活きる職場環境を整備する

職員の働きやすい環境整備を整えることを目標に掲げ、腰痛予防のための負担軽減や効率化を図るため、介護ロボットや機器の導入、年次計画で電動ベッドの購入していく。

職員がより充実して勤務できるようメンタルヘルスケアに取り組み職員を大切にする施設運営に取り組む。

・安定した経営を継続する

施設運営を永続的なものにしサービスの提供を継続していくために、稼働率向上以外での収益向上のため新たな加算を獲得し、増収、収入の多様化を目指し、経営の安定化を目指す。

待機者登録数が減少していく中、登録数増加をめざし地域の医療機関等に積極的に訪問を行い信頼関係を構築する。

ご利用者一人ひとりの心身の状況を的確に把握し、生活に寄り添う看護ケアを心がけ、疾病への早期対応や協力病院、嘱託医師、ご家族との連携を密にし、安心して生活を送れるよう努め、入院日数の削減を図る。

新規利用者や退院者のスムーズな受け入れが実施可能なよう、タイムラグの短縮をめざして各職種の連携・協力体制の強化に努め、稼働率 95%以上を目指す。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

身体拘束の廃止、介護事故の未然防止・再発防止、感染症（特にインフルエンザやノロウイルス）等の予防やまん延の防止、食中毒の予防など利用者が安心した日常生活を送れるよう努める。。

平素から防災関係設備・機器の整備点検を適切に行うとともに、定期的に避難訓練、防災訓練を実施し安全対策に努め入居者の安全対策や環境整備に努める。

平成 30 年度 事業計画(案)

在宅支援部
ケアハウス オパール

- ・ **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

お茶会や季節の外出行事など、ご利用者同士の交流できる取り組みを継続し、新しいことへのチャレンジを行いより多くの利用者の参加が可能となる行事を取り入れ閉じこもり防止に努める。また、定期的な声掛けや訪問を行いながら利用者との信頼関係を築き、相談しやすい環境作りに努める。

- ・ **人が活きる職場環境を整備する**

必要なものと不要なものを分け、必要なものがすぐに取りだせるように置き場所、置き方を決め表示する。また、整理・整頓・清掃を徹底して行う。決められたルールを決められた通りに実行できるよう習慣づける。

- ・ **安定した経営を継続する**

長期間の空室を避けるため、積極的に外部に情報提供を行い安定した稼働率を維持していけるよう努める。

平成 30 年度 事業計画(案)

在宅支援部
デイサービスセンター オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

「利用者様が何をしたいのか？」という事だけでなく「その方が在宅生活を継続できる為には自分たちが何をすべきか？」という視点でアセスメントも十分に行うことや潜在的なニーズも的確に捉えることにより、日常を通じて喜びを感じていただけるサービスを提供する。

また、個別機能訓練の実施に向けて、職員の意識を高める取り組みを行い利用者の意識と自信向上へつなげる。

対象者に合わせた統一したケアの提供とご家族様との情報共有・連携により認知症利用者が安心して元気に過ごせる環境作りを行う。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

法人が目指す地域における公益的な取り組みを理解し、積極的に参画する。

・優秀な福祉人材を育成する

在宅におけるデイサービスセンターの役割を認識し、個別ケアを理解し共有できる専門職を日々の業務や研修参加により育成する。

・安定した経営を継続する

個別機能訓練への取り組みや認知症対応の強化など、登録者増加のための材料を増やし、稼働率アップを継続して目指す。地域のケアマネジャー等に効果的な情報提供を行い関係を強化する。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

ひやりはっと等を活用し、事故事故の減少対策を継続するとともに、不適切ケアを無くす取り組み、適切な記録を行うなど法令遵守の徹底を図る。

平成 30 年度 事業計画(案)

在宅支援部
オパール居宅介護支援事業所

- ・ **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

利用者が適切な療養環境で治療が受けられるように、介護保険のサービスや家族状況、入院までの経緯など医療機関に早急に（3日以内）情報提供をする。カンファレンスに参加することで、在宅生活をするための目標を他職種で共有し、医療と介護の連携をはかり、退院後も住み慣れた地域で安心して在宅生活が継続できるように支援する。

- ・ **地域福祉の拠点となる活動を実施する**

訪問を通じて利用者、家族のニーズや地域の特徴や活動を把握し、法人の地域活動へ活かせるように情報提供し、地域活動の企画、活動に参加する。

- ・ **人が活きる職場環境を整備する**

病院の特性を知り、医療・福祉の関係者と顔の見える関係づくりを強化するため、医療系の研修・勉強会に年10回を目標に参加する。習得した知識は、事業所内でも情報交換し、ケアマネジャーの資質向上を図る。

- ・ **安定した経営を継続する**

地域包括支援センター、医療機関(退院支援、介護保険の申請)、老人施設(退所後の在宅支援)からの紹介や相談に柔軟に対応し、新規利用者の受け入れを行う。

平成 30 年度 事業計画(案)

在宅支援部
福田高齢者支援サブセンター

- ・ **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

在宅で生活している方からの相談を受ける時に、困っていることだけに視点を置くのではなく、その人が自分でできていること、続けたいことにも目を向け「地域の中で生活を続けられる」だけでなく「どんな生活するか」を本人や家族が選択できるように公的サービスやボランティア・地域独自の活動などを含めた情報を提供し支援する。

- ・ **地域福祉の拠点となる活動を実施する**

顔の見える関係、連携を強化するため、地域の中にできているサロン活動やシニアクラブの活動に参加し、高齢者支援センターが相談窓口として活動していることを伝える機会を繰り返し作る。また、地域活動に参加することで地域課題の把握に努める。

平成 30 年度 事業計画(案)

在宅支援部
グループホーム ひなぎく

- ・ **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

季節感や楽しみを大切にした行事や食事の取り組みを計画し、利用者がそれぞれに合ったお手伝い出来るよう援助していく。また、担当者が作成する毎月の家族へのお便りをきっかけに、日々の報告やニーズ把握などの情報交換を行い、より良いサービスの提供を目指す。

- ・ **地域福祉の拠点となる活動を実施する**

運営推進会議を計画的に実施し、職員も積極的に参加することで内容の充実に努める。施設外の交流を継続し、認知症マイスター、ボランティア、実習生を受け入れる機会等を通じて地域に貢献する。

- ・ **優秀な福祉人材を育成する**

施設内外の研修に積極的に参加し、援助方法、業務の検討を行う。事例研究発表の機会を設け、ケアの向上を目指す。

- ・ **安定した経営を継続する**

関係機関との連携を密にし、事前の準備を行うことで円滑な入所を支援し、稼働率の安定を目指す。

- ・ **業務管理体制（法令等遵守）を徹底する**

ひやりはっと等を活用し、事故減少に取り組む。また、マニュアルの徹底を行うことで統一化されたケアを提供する。防災関係設備等の把握に努め、定期的に訓練を実施することで災害時でも落ち着いて対応できるように備える。

平成 30 年度 事業計画(案)

事務局
育成推進室

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

常に利用者の視点から高齢者福祉施設職員として求められる「やり方」と「あり方」を念頭に置いたサービスを提供できるよう働きかけを行う。現状を把握し、課題解決、質の向上につながる取り組みを行う。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

社会福祉法人の責務として位置付けられた「地域における公益的な取組」を法人、プロジェクトチームと共に実施する。各種機関・団体と連携して地域のニーズを把握し、貢献することでより地域に求められる法人を目指す。ふくふく堂の開催等を通じて、地域の皆様と顔の見える関係を築き、ニーズに沿った活動を実施する。

・優秀な福祉人材を育成する

法人の求める人材を獲得し、成長できる職場環境を整える。法人全体で共通した育成システムの確立を図ると共に事業所毎の育成体制において、根拠に基づいた、きめ細やかな育成を行う。新人研修、外部講師を招いての研修、階層別、職種別研修の開催、委員会活動、資格取得支援、研究発表等、様々な機会を通じ育成を行う。効果的な施設外研修計画を立案する。

・安定した経営を継続する

利用者の確保が困難になってきている現状のなか、同業他社との差別化を図る。ホームページ等を活用し、「選ばれる法人」となるよう積極的に情報を発信しブランドイメージを高める。「数字」の理解を深め、より意識した運営が行えるよう役職、中堅職員を対象とした働きかけを行う。また、法人内での連携を強化し、相談から看取りまで複合施設として継続、安心して利用できる援助体制を整備する。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

職員個々が役割を担う上で把握しておくべき法令、ルールを根拠から理解し、実践できるよう研修体制を整備する。多方面から情報を収集し、柔軟に対応できる組織作りを目指す。

・人が活きる職場環境を整備する

それぞれの職員が持つ特性を把握して、適材適所の役割を任命し、前向きに働ける環境を整備する。また活躍の場を作ると共に、取組に対して適正な評価を行うことでモチベーションの向上を図る。

平成 30 年度 法人行事・消防・防災計画(案)

	主な行事	個別避難訓練
4月	新人研修	
5月	法人委員会研修（食中毒）	デイサービス
6月	ふくふく堂	ケアハウス
7月	労働衛生研修	介護 1 課
8月	福田南町内会夏祭り くるみまつり	グループホーム
9月	敬老の日記念式典 法人委員会研修（感染症）	介護 2 課
10月	救命救急講習 階層職種別研修 ふくふく堂	地域密着型
11月	地震対応訓練	デイサービス
12月	階層職種別研修	ケアハウス（夜間）
1月	労働衛生研修	介護 1 課（夜間）
2月	ふくふく堂 階層職種別研修	介護 2 課（夜間） デイサービス
3月	摂食嚥下研修 合同消防訓練	地域密着型（夜間） グループホーム（夜間）